

「格差」と「分断」への 処方箋



司馬遼太郎を再評価しながら、他の国民的作家との比較を通して、
格差と分断の世界に生きるこれからの私たちの共通のベースを探っていきます。

2023-2024

12月23日

第壹局:vs.吉川英治

1月27日

第貳局:vs.松本清張

2月24日

第参局:vs.三島由紀夫

3月2日

第四局:vs.村上春樹

3月30日

第五局:vs.カズオ・イシグロ

いずれも土曜日14:00~16:00

■会場/定員 :

- ①大和市文化創造拠点シリウス6階
大和市生涯学習センター 601講習室/先着50名
 - ②サテライト会場 :渋谷学習センター/先着10名
- ※サテライト会場についての詳細は裏面をご覧ください。

■対象 : 大和市内在住・在勤・在学の方

※市外の方は定員に空きがあれば、12/3(日)から申込みを受け付けます。

■参加費 : 2,000円(全5回分)

学生の方は半額(※学生証をお持ちください)

※初回にお支払いください。返金できません。

■持ち物 : 筆記用具

■申込 : 11/26(日)10:00~ 受付開始

お電話または 6 階生涯学習センター窓口へ

講師と内容の紹介、
取り上げる作品は、
裏面をご確認ください。

司馬遼太郎、
五番勝負！
比較からまなぶ国民的作家の未来像

生誕一〇〇年

お申込・お問合せ 046-261-0491

①シリウスでの
申込はこちらの
QRからも！



※ 天候や交通機関の運行状況及びその他不可抗力により、開催が中止となる場合がございます。

※ 駐車場の数に限りがありますので 公共交通機関でご来場ください。

主催 | やまとみらい(大和市文化創造拠点等 指定管理者)/大和市生涯学習センター

YAMATOMIRAI
イベント情報サイト



司馬遼太郎、五番勝負！ ～比較からまなぶ国民的作家の未来像～



東海大学 文化社会学部 / 文芸創作学科
教授 助川 幸逸郎（すけがわ こういちろう）氏

1967年東京生まれ。文芸評論家、東海大学教授。
頼まれれば、どんなジャンルの原稿でも執筆する「文筆百姓」。
主な著書に『謎の村上春樹』（プレジデント社）・『小泉今日子はなぜいつも旬なのか』（朝日新聞出版）・『つたえるエッセイ』（共著 新泉社）・『教養としての芥川賞』（共著 青弓社）など。現在、『源氏物語』についての大部な研究書と、古典文学入門書を並行して執筆中。

12/23 第壹局:vs.吉川英治「重商主義者」と「農本主義者」

吉川英治は戦後、精神偏重の作風が、軍国主義的であると批判されました。しかし、彼が真に問おうとしていたのは、節度なき近代化がまねく農村の疲弊でした。「普通の日本人」が「農民」だった時代に国民作家となった吉川。経済発展に邁進する戦後ニッポンを象徴する書き手だった司馬。ふたりのうち、いま読みかえされるべきなのはどちらでしょうか。

この回に取りあげる吉川作品:『宮本武蔵』・『新書太閤記』

1/27 第貳局:vs.松本清張「快刀乱麻のキレ者」と「潜入捜査の達人」

松本清張は、司馬と同時期に活躍しました。しかし、ふたりの作風は対照的です。戦国および幕末明治の語り部だった司馬。古代と昭和の歴史について重大な業績を遺した清張。司馬は、時代や人物を象徴する断面を一気に切りとる。清張は、わずかなすき間から核心に入りこむ。両者がそれぞれのやりかたで、この国の何をあきらかにしたのかを考えます。

この回に取りあげる清張作品:『古代史疑』・『日本の夜と霧』

2/24 第参局:vs.三島由紀夫「日出づる国のレジェンド」と「没落帝国の偽史」

高度経済成長の最末期に、三島由紀夫は自決しました。彼の晩年の作には、日本土着の心性を、オカルト的要素をむすびつけたものがあります。それらは、横溝正史ブームに象徴される70年代大衆文化の先駆けでした。司馬が代表していた高度成長期の大衆と、三島の目に映っていたそれとの違い。そこを掘りさげながら、昭和後期の日本について検証します。

この回に取りあげる三島作品:『美しい星』・『英霊の声』

3/2 第四局:vs.村上春樹「東洋のローマ」と「非情の大地」

司馬は、自作を代表する一編として『空海の風景』をあげています。そこに描きだされた唐は、交易で栄えるグローバル帝国です。これに対し、村上春樹作品のなかの中国は、「暴力」や「罪悪」とつながっています。ふたりの作家の目に、かくも対照的な中国の姿がおすばれたのはなぜか。この問いを糸口に、司馬と村上それぞれの「盲目と明察」にせまります。

この回に取りあげる村上作品:『中国行きのスロウ・ボート』・『ねじまき鳥クロニクル』

3/30 第五局:vs.カズオ・イシグロ「痛みに沈黙する当事者」と「トラウマの代弁者」

イシグロの『日の名残り』には、ナチスを支持したために没落する英国貴族が登場します。戦後の生まれのイシグロですが、WW2と結びついた「傷」は彼にとって重要テーマです。これに対し戦争体験者である司馬は、昭和戦前を舞台にした作品を書けませんでした。ふたりを比較しながら、小説において「歴史の暗部」を問う意味を考えます。

この回に取りあげるイシグロ作品:『日の名残り』・『忘れられた巨人』

この講座は、サテライト受講も選択できます。

【サテライト受講とは】

メイン会場で行っている講義の様子を、別会場のスクリーンに映して中継をご覧いただく方法です。現地に行かなくても受講できます（質疑応答も可能です）。

大和市渋谷学習センター（308会議室）

■申込：電話(046-267-2027)または窓口、WEB申し込みも可。

■定員：先着10名 ■対象・参加費：表面記載内容と同じです。

②渋谷学習センター
での申込はこちらの
QRからも！

